2019.01

vol.1

Renewal
リニューアル

特集
障害福祉サービス事業所 Link

クローズアップ

ゆうあい

誰もが自分らしく
安心して暮せる
温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人加島友愛会

新年のごあいさつ

『レインボープラン』第2期は、サービス付き高齢者向け住宅を本年7月竣工をめざし建設中で、大きく前進しております。

社会福祉法人加島友愛会
理事長
平田 純博

新年明けましておめでとうございます。皆様にはつつがなく新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年は、地域をはじめ皆様のご協力ご支援を賜り、加島希望の家・アンダンテ加島・かしま障害者センター・障害者グループホーム（8カ所）を拠点とする障害者福祉事業、加寿苑・リュミエール加島などを拠点とする高齢者福祉事業は、大過なく順調に経過しており、感謝申し上げます。

一昨年2月にスタートさせた地域貢献事業、加島・三津屋地域住民送迎事業（無料）は、地域ボランティアにご協力もいただき、利用会員282名、延べ3,652名の利用者（18年10月末）に増加し、地域に居住される高齢者、障害者のみなさんに大変喜んでいただき順調に運行しております。

国際貢献事業としては、JICAの委託によるマレーシア・中東ヨルダンへのジョブコーチ講師派遣と障害者就労支援事業の視察団を受け入れてきました。

一昨年前、介護福祉士の資格取得をめざすベトナム人留学生2名（女性）を加寿苑で受入れました。さらに、昨年3月から男性の留学生2名を加わえ、就労受入れや住宅等生活支援をしております。

『レインボープラン』第2期は、サービス付き高齢者向け住宅ファミール・シャルレ（職員住宅含む）を昨年8月に着工、本年7月竣工をめざし建設中で、大きく前進しております。

これらは、サービス利用者とご家族の皆様、地域の皆様、人材不足の中で精励する職員、社会福祉事業の仲間の皆様のご支援、ご協力の賜ものと感謝申し上げます。

旧年は、中国・四国集中豪雨災害、北海道地震災害など大変な災害がありました。

被災された皆様にお見舞い申し上げるとともに、1日も早く復旧・復興がなされますよう祈念申し上げます。

さて、「アメリカ第一主義」を唱え登場したトランプ大統領が、米国内と世界の政治・経済・社会に大きな影響を与えております。とりわけ人権に関する差別的言動や排他主義は、アメリカ国内だけでなく国際的に極右傾向に拍車がかかり、私たちは平和と人権が崩壊するのではと危機感を持ちます。

加島友愛会は、人権・福祉・平和の共生社会をめざしており、危険な流れには断固として抗わざるを得ません。

新年が、障害者や高齢者をはじめ全ての人々にとって平和で落ち着いた暮らしでありますよう祈念申し上げます。また、『レインボープラン』第2期の推進とともに地域貢献事業、国際協力・交流事業にも力を入れ加島・三津屋地域をはじめとする地域福祉に貢献したいと考えております。

2019年も皆様の変わらぬご支援ご協力を重ねてお願いしまして、新年のご挨拶といたします。

加島のあかりちゃん

機関誌リニューアルについて

実践のアウトプットに力を入れ、その結果として利用者の方の日常生活にスポットが当たるような機関誌になることを期待しています。

社会福祉法人加島友愛会
専務理事
酒井 大介

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

これまで「友愛会だより」、「かしま友愛」と名前を変えながら機関誌は、年2～3回の定期発行を35回続けてきました。広報内容は各施設のイベント紹介が中心で、情報として何か物足りなさを感じていました。法人が高齢・障害の別分野で複数の事業を展開する中、法人の魅力として何を広報したいかを見直す必要があると考えたのがきっかけです。リニューアルの検討作業のため各部署の代表による機関誌委員会を立ち上げました。

機関誌リニューアルに向けて

機関誌を通じて、当法人の魅力をどのように伝えていくべきか、機関誌委員会でまず議論をしてもらいました。その中で大きな出来事やイベントの広報に偏らず、日々の実践に焦点を当てて広報したいという意見に共感しました。掲載方法としては、これまでのように全事業を取り上げる方法もあるのですが、介護や支援の現場での実践を深く掘り下げて紹介することに力を入れ、毎号ひとつの施設・事業に焦点を当て、事業の魅力を引き出しお伝えしたいと考えています。まさにクローズアップです。

また、このような企画により、担当する職員自身も自分たちがやっている実践の整理ができるのではないかと副産物も期待しています。

一方、施設のイベント紹介は利用者の家族のみなさんには大事な情報ですので、各施設の機関誌を充実してそこで扱うようにしたいと思います。

リニューアルされた誌面について

読む人の視点を重視し、現場で働く職員の話や写真により具体的でイメージが伝わりやすい誌面にしたいと考えています。インタビューや座談会、現場取材を行い魅力ある誌面作りに心がけますが、我々のような素人だけでは限界がありますので、今後も専門家の表現事務所 Sid（シド）さんに協力を依頼し、機関誌作りを進めていきたいと考えています。

タイトル、デザインを一新

まず、デザインは2色刷りからカラーで表現することで、これまでとは大きく変わり視覚に訴える誌面にしました。

タイトルの ui は、読み方として「ゆうあい（友愛）」です。これまでの機関誌を引き継ぎながら、「あなた（you＝U）と私（I）」という意味や遊び心も加えてみました。

期待ふくらむクローズアップ ui

これは手前味噌ではありますが、加島友愛会には優れた実践が普段当たり前のように存在し、また埋もれているようにも思うのです。その実践をアウトプットすることに力を入れ、その結果として利用者の方の日常生活にスポットが当たるような機関誌になることを期待しています。

さらに施設紹介にとどまらず、地域社会を取り巻く課題など人権や社会福祉事業と関わりのある内容についても貪欲にクローズアップしていきたいと考えています。

リニューアル前

リニューアル後

Link では、一人でも多くの障害のある人が社会に出て働くことを通して認められる社会の実現を目指します。

加島のあかりちゃん

本誌 vol.1 では加島友愛会の障害福祉サービスの中から
Link について紹介します。
Link は 2006 年に障害者の就労支援に特化した事業所として誕生。
社会に出て働きたいという障害者の思いを実現するために、
様々な職業訓練や企業実習を提供し、適性を考慮したうえで
一般企業等への就職をサポートする福祉サービスです。

加島のひかるくん

障害福祉サービス事業所【Link】って？

Link は4つの事業を実施している多機能施設です。

●就労移行支援事業
民間企業への就職を目標とする利用者に対し、施設内作業や職場体験実習を提供することで、基本的労働習慣を身につけ、円滑な就労を目指すための支援を行います。

●自立訓練（生活訓練）事業
基本的労働習慣・生活習慣の確立、社会生活スキルの向上を目的とし、就労移行支援事業への移行など就労を目指すための支援を行います。

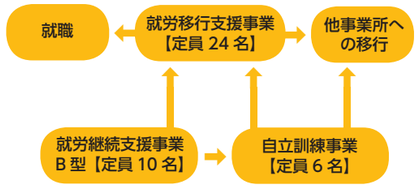
●就労継続支援事業B型
利用者それぞれに合った作業を提供し、安心・安定して施設生活を送ることができるよう支援を行います。

●就労定着支援事業
就職した利用者に対して様々な相談に応じたり、適宜職場を訪問するなど安定して働き続けられるよう支援や助言を行います。

2017 年度就職者数
14 名
2006 年～2018 年 10 月現在
累計 160 名

職場定着率
94%
雇用継続5年以上

事業構成



明るい施設だなぁ。それが第一印象でした。

――Link へ来られた方がみなおっしゃるのは、ここは明るいということ。それはなぜなのでしょう?

前田　福祉の世界ってネガティブなイメージだけだったのですが、ここに初めて来たとき、一生懸命働いている利用者さんを見て「凄いなぁ」「頑張っているなぁ」と感激しました。その頑張りも、何かとても清々しくて楽しそうで、私自身も Link で働きたいって強く思いました。

加瀬　私も福祉の実習のために加島友愛会を保育科の先生から勧められて来たのですが、福祉施設に抱いていたイメージとは真逆でした。私は幼児教育を目指していたんですが、その場で Link で働きたいと思いました。

石川　私は９月に入職したばかりですが、実はその思いは私も同じでした。ここでは障害のある人と、その支援に取り組んでいる職員が非常にいきいきと各々やりがいを持っている。それがこの明るさに繋がっているんじゃないでしょうか。

前田　そうですね。これまでの福祉の世界は障害を克服するという考え方でした。だから、少しでも歩けるようになるとか、１つでも文字を覚えるとか、ある意味で障害をネガティブに捉えていたんだと思います。でも、Link では環境に働きかけたらいいんじゃないかという考えなんです。それが大きな違いなんです。

玉城　私が入職した14、5年前には、ここにジョブコーチがすでにいました。障害者の就労が注目されるずっと前のことです。当時は支援の対象が加島友愛会の施設の利用者中心でしたが、障害のある方の働きたいという気持ちに応える取り組みをすでに始めていました。

前田　加島友愛会では、随分前からジョブコーチの取り組みを始めていたのですね。

玉城　そうです。私が入職した時は、酒井専務理事や市村副館長が現場のジョブコーチとして活動していました。その姿を見て、私もジョブコーチをやってみたいと思ったのです。この 10 年で就労支援を取り巻く環境は大きく変化し、利用のニーズや障害特性も多様化しているので、より広い知識とスピリットを持って支援をする必要がありますね。

玉城由美子
Link 支援課長
（サービス管理責任者）

プロフィール
（たましろゆみこ）学生時代、ジョブコーチという支援技術に興味を持ち、先駆的に実践していた加島友愛会に2004年入職。酒井専務理事や市村副館長にジョブコーチのいろはを学び、2年間ジョブコーチとして活動。環境側に働きかけ、社会に送り出すこの仕事に魅了され14年。現在、Link の支援課長、サービス管理責任者とし事業の運営に関わる。趣味はお酒を飲むこと。

File1　ジョブコーチ水津由依

ジョブコーチがいなくなるようなそんな社会が、ホントは理想です。障害者があたり前に働ける社会を早く実現したいですね！
水津由依

「差別はあかん」って障害のない人間が言わないと

私達は小さいときから障害のある子と一緒に大きくなりました。だから「差別されること」の意味が分かりませんでした。ところが修学旅行の時、地元の人が怪訝な顔をして友達を見ていました。その時、初めて差別を感じました。そして子ども心に「差別はあかん」と、私たちのような障害のない者が言わないとあかんと思いました。その時以来、障害者を守る仕事、手助けする仕事に就きたいと思ってきました。でも早くに結婚し、それは夢に終わりそうでした。

その後、意を決して通った保育士養成専門学校で、Link への実習を申し出ました。地域で障害のある人の就労支援をしていたことを知っていたからです。実習を通して、その支援の実践を知り、「あ、私の仕事はこれだ!」と思いました。入職後は、利用者の就職前支援に関わり、現在はジョブコーチとして日々奮闘しています。

私自身何を具体的にできるのか、自分自身に能力があるのか、不安だらけでしたから、利用者さんの不安な気持ちがよく分かります。また、実際に企業への就労が近くなると親御さんにお会いしてお話しする機会もあるのですが、私も親であり、子でもありますから、親御さんの心配もよく分かります。

また、企業にも障害者雇用への不安があります。これらの不安や心配に対して自分が介入し関わることで、『当たり前に働き、暮らす』を実現する、そんな光景を目にしたくて、毎日ジョブコーチとして頑張っています!

就労現場に訪問し支援する一番面
（左：水津さん 右：Link 利用者OB）

プロフィール
（すいづゆい）高校卒業後、すぐに結婚。子育て真っ最中の時に、再会した高校の恩師から「夢を実現するのに遅すぎるということはない」と言われ、保育士取得のための専門学校に通うことを決意。その実習授業で加島友愛会 Link と出会う。卒業後、迷うことなく Link への入職を希望。１年間の訓練スタッフを経てジョブコーチとなり、今年５年目。障害のある人の就労支援を行っている。現在、小学４年生になる男の子の母。多忙だが充実した毎日を送っている。趣味は甲子園での野球観戦。

●ジョブコーチって?
ジョブコーチは就職された方がその後安定した職業生活に移行できるように支援を行います。実際の職場で本人の側について、仕事を覚えられるように指導したり、職場の方々と良い関係を築けるように支援を行います。

●ジョブコーチ支援の流れ

【雇用前実習】
●職場環境を整える
●職場・ハローワーク・家庭との調整

【職場適応支援】
●就職に対する不安や課題の解決
●本人と従業員・職場との関係づくり

【職場定着支援】
●定期的に職場を訪問
●就職者（Link 利用者）が集まる OB 会を開催

実践的な経験とともに働くイメージの具現化が目標

――Link では、①施設内でのリアルな作業訓練、②実践的な施設外作業と企業実習、③就職先との緻密な調整、の３つを特徴として挙げていらっしゃいますが、就労移行支援の2年の限られた期間にこれらを実践していくのは大変なのではないですか。

前田　コミュニケーションが苦手という利用者さんが多いので、見守るのも私達の責任だと思います。できないことを責めたところで何の意味もないし、何も生まれてきません。

加瀬　それよりもできることを見つけて、それを仕事に繋げていく方が何倍も素敵ですよね。

前田　確かに、そうですね。

加瀬　できることを一つでも増やしてあげたいと私などは思います。利用者さんのやる気や思いを汲み取りながら、自発的な行動や言葉を待つように意識しています。そのような視点で様子を見ていると、利用者さん同士が「体調悪そうだけど大丈夫?」「手伝おうか?」「実習がんばってね!」などと声を掛けあっている姿が目に留まります。何気ない一場面ですが、相手への思いやりの言葉が自然と出るところが素晴らしいなあと思います。ちょっと感動しています。

前田　そうですね。結局、私達は教えたり、支援していると言いながら日々感動をもらっているんですね。こんなにいい仕事は、正直、ないですね（笑）。

加瀬　就労移行の2年の間にビジネスマナーなど伝えたいことはたくさんあるけど、一方的に伝えるだけではダメで、利用者さんと一緒に悩んだり学んだりしながら、私も成長したいと思います。

玉城　そうですね。スタッフがそのような思いで利用者さんと向き合うことで、本当の意味での「支援者」になれる気がします。Link は作業を中心に職業前訓練を行っています。品質管理を学んだり、「報・連・相」の練習をしたりします。そして、企業実習等で実践経験を積み、利用者さんは自分の得手不得手を知る中で、働くということのイメージを具現化していかれるのだと思います。就労支援のプロとして、このプロセスを大切にしたいですね。

その人を知り、分析し、情報を企業に伝えること

――次の段階として、社会で働く。つまり、企業での就職を意識して、気をつけていることはありますか。

加瀬　まず障害特性というものもありますから、利用者さんの特性を仕事に活かせるように企業にも伝えて行きたいと思っています。

石川　先輩職員の皆さんが利用者さんに対してとても丁寧に接し、細かな情報を逐一拾っている姿勢をみて「人と向き合う仕事とはこういうことなんだ」と思いました。

玉城　その人を知り、分析し、情報を企業に伝えること、これは最も重要な仕事です。

石川　仕事をし、対価としてお金をもらい、それで生活することは人が生きる上で大きな自信になります。今までは障害のある人はそんな願いさえ阻まれていたけれど、考え方、視点を変えれば働ける環境は沢山得られます。

加瀬　そうですね。ちょっとかみ砕いた言い方で順序だてて伝えたり、言葉で伝えにくいものは絵で伝えたり、支援する側にも工夫が必要ですが、それは、ほんの小さな工夫でいいんですね。

前田　そういう工夫が企業でも必要ですよね。

玉城　そうですよね。企業側の理解やサポートを引出し、利用者さんの力が発揮できるように支援することが私たちには求められますね。そして、企業もまた障害者雇用に対する不安や課題を抱えています。だからこそ、私たちは企業のみなさんとも丁寧に向き合い、そういうものが払拭できるように努めなければなりません。そうやって福祉側と企業側が協同することで、誰もが生きやすい社会になるのかもしれません。

Link での活動を通して、社会と繋がることにこだわりたいです

前田　私が凄く嬉しかったのは自分が常に伝えていた「挨拶の大切さ」が伝わった時です。退所式（就職が決まり、Link を離れる日に行われる）の日に、「企業実習に行って思ったけれど、挨拶や返事はちゃんとしなくちゃけない」と、担当した利用者さんが後輩に話していたんです。「わかっていたんだ」と、その時はとても嬉しくなりました。

加瀬　退所式はさすがに胸に迫るものがありますものね。

石川　たしかに、スーツに身を包んで緊張した面持ちで退所式にやって来る利用者さんを見て、やはり胸に迫るものを感じました。彼らが社会で働きたいという思いが強ければ強いほど、喜びは大きいでしょう。人の喜びに立ち会うなんて、私達も幸せです。

前田　本当に日々大変ですけれど、とても嬉しいですね。

玉城　今回は就労移行支援の取組みが中心の話題になりましたが、Link では就労継続支援も行っています。働くことを通して得られる喜びや自尊心は、企業就労だけではないはず。Link での活動を通して、社会と繋がることにこだわりたいです。

前田良子
（まえだりょうこ）児童養護施設で保育士とし働いた後、Link で職業指導員として働いている。児童養護施設での経験は利用者さんとの関わりで生きている。趣味はライブ鑑賞。

石川文彦
（いしかわふみひこ）大学を卒業後企業２社で 20 年働く。42 歳の時に「人の命に関わる仕事がしたい」と退職。１年福祉の現場を経験の後、９月より当施設へ。趣味は野球観戦。

加瀬千穂
（かせちほ）企業で営業職の経験もある。 Link は専門学校の実習場所として紹介されたのがきっかけ。この世界で働きたいと強く希望し、入社した。趣味はおいしいお酒と料理。

File2　Link 利用者 OB 福森海斗さん

Link 利用者 OB 福森さんの就職までの流れ

支援学校卒業 → Link（自立訓練 1年 → 就労移行支援 1年）→ 就職 → 加納総合病院

患者さんにありがとうございますと言ってもらえるのが嬉しいです

福森海斗さん（Link 利用者 OB）

●就職した福森さんに聞く

――就職先の病院での看護補助業務について

福森　ふきそうじなどをして綺麗になったり患者さんにありがとうございますと言ってもらえるのが嬉しいです。もっとお役にたてるように、頑張りたいです。新しい仕事が時々増えるのも嬉しいです。

――看護師さんや介護福祉士さんとの関係については?

福森　質問など聞いたことは、教えてくれます。みなさん優しいし、働き続けたいです。

●担当ジョブコーチより

福森さんの就職にあたって、加納総合病院さんと何度も打ち合わせをしました。職員の相性、適切な仕事やスケジュールなどを決めました。福森さんがやりがいをもって働けていることが嬉しいです。

福森さんは、仕事に穴をあけないし、決められた仕事をきっちりとしてくれるので、引き続き一緒に働いてほしいです。

社会医療法人協和会 加納総合病院　組橋内部事務管理室長、佃師長

●福森さんの就職先、「社会医療法人協和会加納総合病院」の組橋内部事務管理室長（以下組橋）、佃師長（以下佃）にお話をうかがいました。

――障害者雇用をするきっかけは?

組橋　2年前の春に、障害者2名の退職者が急に出て、障害者雇用率が少し不足した状態になり、納付金を支払いました。当院のハローワークの求人票を見ていただいた加島友愛会とつながりができ、トライアル雇用の提案をいただいたのが福森さんを採用するに至ったきっかけです。

――障害者雇用をすることになって改めてどうでしたか

佃　正直戸惑いました。職員は仕事ということで、覚悟?みたいなものはできていましたが患者様には理解していただけるか、受け入れていただけるか不安でした。

――採用してよかったことはありますか。

組橋　社会貢献は言葉で言うのは簡単ですが…雇入れをした福森さんが戦力になっていることをスタッフにもわかってもらえたらと思っていました。それが実感でき、採用して良かったなと思います。当たり前のことですが、毎日休まずに来て、遅刻もせず、時間に正確で、丁寧にきっちり業務に取り組んでもらえている事です。

――ジョブコーチ制度を活用して良かったことは何ですか

組橋・佃　雇用した後も、定期連絡や訪問をしてくれることです。タイムリーに相談ができ、安心しています。また、家族との懸け橋になってもらっています。

今でも新聞等で紹介をしていただき、今回のような取材もしていただき、福森さんのモチベーションアップに繋がっています。

訪問した水津さんに「退院する患者さんを見送れるのが嬉しいです」とやりがいを語る

誰もが自分らしく安心して暮せる温もりのある地域社会をめざして

社会福祉法人

加島友愛会

〒532-0031
大阪市淀川区加島１丁目60-36
TEL.06-6101-6601 FAX.06-6308-7299
e-mail 1991@kashima-yuai.or.jp
URL http://www.kashima-yuai.or.jp

加島のひかるくん

❶かしま障害者センター

〒532-0031 大阪市淀川区加島１丁目60-36
TEL.06-6308-7206 FAX.06-6308-7299

むつみ（生活介護事業・就労継続支援事業Ｂ型）
e-mail mutsumi@kashima-yuai.or.jp

地域生活支援部（グループホーム）
e-mail kashima-chiikiseikatu@kashima-yuai.or.jp
●加島苑●セッション●チューリップ●あさがお
●カナリヤ●うぐいす●ひのき●トレフル

Link
（就労移行・就労継続支援事業Ｂ型・自立訓練・就労定着支援）
TEL.06-6308-7210 FAX.06-6308-7220
e-mail link@kashima-yuai.or.jp

障害者就労支援事業部
TEL.06-4805-2485 FAX.06-6308-7220
e-mail kashima_jc@kashima-yuai.or.jp

COCOLO（相談支援・地域活動支援）
TEL.06-6308-7209 FAX.06-6308-7220
e-mail cocolo@kashima-yuai.or.jp

❷ル・プラス（就労継続支援事業Ａ型）

〒561-0843 大阪府豊中市上津島１丁目4-3
TEL.FAX.06-6151-3701
e-mail re.plus@kashima-yuai.or.jp

❸加寿苑　特別養護老人ホーム

●特別養護老人ホーム●ショートステイ●診療所
●ケアプランセンター●デイサービスセンター
〒532-0031 大阪市淀川区加島１丁目34-8
TEL.06-6305-0711 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen@kashima-yuai.or.jp

淀川区西部地域包括支援センター
TEL.06-6305-0737 FAX.06-6305-0738
e-mail yodogawa-seibu@kashima-yuai.or.jp

❹アンダンテ加島（施設入所支援・生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島１丁目36-46
TEL.06-4806-6780 FAX.06-4806-6781
e-mail andante@kashima-yuai.or.jp

❺加島希望の家（生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島１丁目49-21
TEL.06-6390-5666 FAX.06-6302-2551
e-mail kibou@kashima-yuai.or.jp

❻リュミエール加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島４丁目16-35
TEL.06-6308-7788 FAX.06-6308-7799
0120-087-322
e-mail lumiere@kashima-yuai.or.jp

❻ヘルパーステーション　トレフル

〒532-0031 大阪市淀川区加島４丁目16-34
高齢者部門● TEL.06-6308-7797
FAX.06-6476-7185
e-mail trefle2@kashima-yuai.or.jp
障害者部門● TEL. FAX.06-6476-7185
e-mail trefle@kashima-yuai.or.jp

❼サービス付き高齢者向け住宅

ファミール・シャルレ
〒532-0031 大阪市淀川区
加島１丁目38
TEL.06-6101-6601
0120-991-707

19年８月
オープン
予定

企画　法人機関誌検討委員会
蓬田高広
西岡剛
真嶋広匡
谷口哲夫
市坪正二
森本亜紀彦
辻川千博
内田信也
編集協力　野澤好子
デザイン　桐田博子
撮影　中野沙央里
印刷　（財）浪速振興会